助成者	伊能　まゆ	活動期間	2017年4月～2019年2月
所属機関	特定非営利活動法人Seed to Table	職　名	理事長

ベトナム北部山岳に暮らすムオン民族と取り組む環境保全型の村づくり

【活動場所】ベトナム北部山岳地域ホアビン省タンラック郡
【事業目的】ベトナム北部山岳地域に住むムオン民族は、森の資源を上手に活用しながら稲作と畑作で暮らしてきた。しかし近年ではインフラ整備に伴いトウモロコシなど換金作物の栽培が広まり、農薬や化学肥料の使用が増えて健康被害や土壌悪化が進んでいる。また、増えつづけるゴミや家屋床下での家畜の飼育、野糞の習慣なども残り、村の衛生状態や水源の汚染が課題となっている。以前のように地域の自然、生物多様性、伝統、食文化を守りながら暮らしていけることを目指し、環境に負荷をかけない有機農法を推進し、その素晴らしさを外部の人々に紹介することで、地域の人々の暮らしを改善していくことを目的とする。

有機農業技術研修の様子

奈良学園高校生による里山探索の様子

【活動内容】
①有機農業研修：3村の青年グループと有機みかん生産者グループへ有機農業＆生態系の研修を計25回開催。遺伝子組み換え種子に関する研修を2村で開催し55名参加。
②エコツーリズム推進・体制づくり：情報収集とネットワークづくり、フェイスブック開設、青年団員による里山案内（日本から訪れた奈良学園高校生へ2回実施）
③環境衛生改善：3村の貧困95世帯へトイレ設置支援（半額は自己負担）
④会合：定期会議16回（関係者との進捗会議）、中間評価会議、総括会議
【活動成果】
有機農業においては、有機地豚生産者および有機野菜生産者グループが自力で販路を開き、市場価格の2倍で販売する事例や、郡のPGS制度へ参加する生産者グループが出てきた。エコツーリズムは、1村の人民委員会が取り組みを表明するキックオフ会合が行なわれ自主的に活動が進められている。トイレの支援は、金銭的に余裕がある世帯が触発され自力で設置する動きが出てきた。地域では若者の都会への流出が止まらないという課題も抱えるが、この運動を支えるリーダー層が確実に生まれてきており、自立的に活動が継続されることを期待したい。